

TMPU Family

東北医科薬科大学報

2022.12

vol.40



大学より

令和4年度在学生保護者教育懇談会

医学部より

授業・実習の実施状況

薬学部より

薬学科6年次
卒業研究発表会



ラジオ×YouTube番組スタート

CONTENTS

大学より

大学関係

大学院医学研究科の設置	1
オープンキャンパス2022開催	1
令和4年度大学祭開催	1
課外活動再開	1
令和4年度在学生保護者教育懇談会	2
令和4年度卒業式のお知らせ	2

医薬連携

医薬研究交流会について	2
課題研究	3

社会貢献

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパスでの 公開講座開催	3
高大連携事業に係る公開授業開催	3

医学部より

授業・実習の実施状況	4
白衣授与式	5
いわき市医療センターでの地域臨床実習を終えて	5
臨床実習後OSCE実施	5
医師国家試験対策	5
医学部 後期行事予定	6
臨床研修について(医学部1期生)	6

薬学部より

薬学部後期オリエンテーションの開催	7
遠隔授業、対面授業の実施状況について	7
薬剤師国家試験対策	7
薬学科6年次卒業研究発表会	7
薬学科5年次実務実習成果報告会	8
第55回日本薬剤師会学術大会	8
薬学部 後期行事予定	8
令和4年度就職(進学)状況	9
令和4年度薬学部キャリア・就職支援行事予定	9
就職活動体験記	10
インターンシップ体験記	10

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼)	11
引用データベース「Web of Science」導入	11

大学院より

令和5年度大学院医学研究科入学者選抜日程	11
令和5年度大学院薬学研究科入学者選抜結果	11
令和5年度大学院薬学研究科入学者選抜日程	11

入試センターより

薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)実施結果	11
令和5年度入学者選抜日程	11

同窓会より

東北医科薬科大学同窓会東京支部の生涯学習研修会 (第37回)を再開しました!	12
叙勲・表彰	12
同窓会からの新型コロナ感染症対策のための 学習環境改善支援について	12

二松会より

二松会総会の開催について(書面表決)	12
--------------------	----

附属病院より

本院より

電子カルテの更新について	13
初診・再診時の「選定療養費」改定について	13
市民公開講座(オンラインセミナー)について	13

若林病院より

仙台市CKD病診連携モデル事業への参画について	13
遺伝子検査サービスGenovision Dock®(ゲノビジョンドック) の対象拡大	13

法人より

学内人事	14
令和4年度外部資金獲得状況	14

トピックス

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2022』に 本学が初めて出展	15
ミヤギテレビ「OH!バンドス」と東北医科薬科大学が コラボレーション	15
NHK仙台「おはよう宮城」「てれまさむね」および ミヤギテレビ「OH! バンドス」に医学部 感染症学教室の 賀来満夫特任教授が出演	15
「仙台七夕まつり・前夜祭」における感染対策の重要性に ついて、薬学部 臨床感染症学教室の藤村茂教授が解説 した記事が、河北新報1面に掲載	15
薬学部 放射薬品学教室の山本由美助教へのインタビュー 記事が日本アイソトープ協会のページに掲載	15
医学部5年生の山田陽太君が第二著者に入った論文が 出版されました	15
医学部4年生の輿石真有さんが共著者に入った論文が 出版されました	15
薬学部 薬理学教室の根本互助教が 「令和3年度 日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞」を受賞	16
医学部 衛生学・公衆衛生学教室の佐藤倫広助教の 筆頭執筆論文が「第14回JAT賞受賞論文」に選定	16
医学部医学科4年生の小高裕貴君が第119回東北整形 災害外科学会で「学生セッション優秀演題賞」を受賞	16
薬学部 臨床薬理学教室の鈴木裕之講師が 「日本病院薬剤師会 東北ブロック第11回学術大会 優秀ポスター賞」を受賞	16

教室紹介

医学部 内科学第二(消化器内科)教室	17
薬学部 薬理学教室	17

ラジオ×YouTube番組スタート

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)・

記念グッズの紹介	巻末
----------	----

教育研究協力資金の受入状況

および使途報告	巻末
---------	----

大学関係

大学院医学研究科の設置

本学が文部科学省へ申請を行っておりました大学院医学研究科の設置につきましては、お蔭様をもちまして、去る9月5日(月)に設置認可書を受領し、令和5年4月の開設が決定と相成りました。本研究科は、地域医療の課題解決に向けて不断的な努力で取り組むことができる医学・生命科学研究者または高度専門職業人の養成を目指します。今回の認可を受け、来年4月入学の一期生募集を開始し、11月25日(金)には入学者選抜(一次募集)を実施しました。今般の認可に至るまでのお力添えに対し、改めて御礼を申し上げますとともに、引き続きご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



オープンキャンパス2022開催

8月6日(土)、7日(日)に小松島キャンパスで薬学部、医学部のオープンキャンパスを開催いたしました。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため人数を制限(完全予約制)し、換気やソーシャルディスタンスの確保などの対策を徹底して開催いたしました。

学科説明、入試説明、模擬講義をはじめ、模擬薬局見学、研究室展示、ハンディキャップ体験学習展示、就職紹介コーナー、薬用植物園見学、カフェテリアやレストランでのキャンパスライフ写真パネル展示等の企画や展示を実施しました。

また、入試・学生生活・学資に関する相談コーナーを設け、参加者の皆さんの様々な疑問質問にお答えしました。

オープンキャンパスを通して本学でのキャンパスライフをイメージし、進路選択の参考になれば幸いです。



令和4年度大学祭開催

今年は3年ぶりに東北医科薬科大学大学祭を開催することが出来ました。大学祭のテーマは、「ぐるぐるぐるかごん(英題 cycle of the glucagon)」でした。グルカゴンは血糖値調節の力があることから「長きに渡る自粛期間で不足してしまった心の栄養(血糖)を満たせるような楽しい大学祭にしたい」という意味が込められています。

2年の空白期間があり、またコロナ禍での開催だったため、準備・運営がとても大変でしたが、YouTube配信やゲーム大会など例年の大学祭に捉われない自由な発想で実施できたと思います。

今年度は感染対策のため入場制限を設けた上での開催となりましたが、来年度以降はさらにより良い大学祭となるよう、事前

準備をしっかりと行い、外部の方との交流を取り入れていきたいと思っております。最後になりますが、皆様のご協力のおかげで大学祭を開催できたことを感謝いたします。

大学祭実行委員長 薬学部薬学科2年 城戸 伽胤



大学祭実行委員長の城戸君



大学祭実行委員会 集合写真

課外活動再開

コロナ禍で課外活動ができない期間が続いておりましたが、令和4年6月に課外活動再開に向けた説明会を実施し、早い団体では7月上旬から活動をスタートすることが出来ました。10月4日(火)時点では、46団体の諸手続きを終えた27団体が感染対策に配慮した形で活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、今後も段階的に制限を緩和し、活発な課外活動が出来るよう努めてまいります。



準硬式野球部の活動の様子

令和4年度在学生保護者教育懇談会

令和4年度在学生保護者教育懇談会を10月1日(土)に仙台会場(薬学部:小松島キャンパス、医学部:福室キャンパス)、10月15日(土)に秋田会場(薬学部対象)、10月16日(日)に青森会場(薬学部対象)にて開催しました。

また、今年度は対面開催の他Web開催として、仙台会場での説明の様子を録画し、10月4日(火)から10月31日(月)までの期間、本学ホームページ上に動画を公開いたしました。

この懇談会は、本学の教育現況と方針を在学生の保護者の皆様に説明し理解を深めていただくことを目的として開催しております。新型コロナウイルスの影響でここ2年間はWebのみでの開催だったため、対面開催は3年ぶりでしたが、対面開催時には398名の保護者の方にご参加いただきました。たくさんのご参加、誠にありがとうございました。



薬学部 秋田会場の様子



医学部 仙台会場の様子

令和4年度卒業式のお知らせ

令和4年度学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式を、令和5年3月8日(水)午前10時より本山製作所青葉アリーナ(仙台市青葉体育館)において挙行いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止の観点から内容等変更する場合があります。変更となる場合は、随時大学ホームページにてお知らせいたします。

医薬連携

医薬研究交流会について

「医薬研究交流会」は、本学の医薬融合と共同研究推進を目的として研究推進委員会が中心となり、平成29年10月に発足し、今年の10月までに計16回開催されました。

今年度のテーマは、本学の中長期計画(令和3年度事業計画)に基づき実施した研究エフォート調査結果を受け、若手研究者同士

の交流、情報交換の場を設けるという目的で「若手教員研究支援セミナー」と称し、開催しました。

次年度も本学の医薬連携研究推進のため、様々な取り組みを予定しています。

医薬研究交流会開催実績

第1回	平成29年10月11日	がん関連医薬共同研究
第2回	平成29年11月 8日	循環器/アレルギー・自己免疫疾患関連医薬共同研究
第3回	平成30年 1月25日	神経関連医薬共同研究
第4回	平成30年 3月 5日	感染症関連/その他医薬共同研究
第5回	平成30年 5月24日	画像診断・分子イメージング
第6回	平成30年 7月24日	がんと糖鎖
第7回	平成30年 9月18日	AI
第8回	平成30年12月 5日	感染症Ⅱ
第9回	平成31年 3月 6日	腎症
第10回	令和元年 7月29日	研究推進委員会新体制の紹介
第11回	令和元年12月10日	医薬シーズ・治療戦略の開発
第12回	令和 2年 7月30日	臨床研究とその評価
第13回	令和 3年12月22日	医薬連携による共同研究成果発表
第14回	令和 4年 1月26日	医薬連携による共同研究成果発表・提案
第15回	令和 4年 8月 3日	若手教員研究支援セミナー第1弾
第16回	令和 4年10月24日	若手教員研究支援セミナー第2弾

課題研究

医学部の3年次通年科目「課題研究」のねらいは「医学・医療の進歩と改善に、生涯にわたり資するために、医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、課題を発見・解決する能力を獲得する」ことであり、学生は医学部33教室・薬学部17教室のうち、いずれかの教室に配属され、1人の指導教員につき学生1～2人の少人数体制で研究の方法を学びます。

本科目の特色は、進級しても申請により配属先で研究を続けることが可能であることで、3年次の時点で一旦成果を報告書にまとめる必要はありますが、4年次以降も放課後等の自由時間を利用して、課題研究の成果を論文にまとめる学生や、学会で発表し、受賞する学生もいます。

社会貢献

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパスでの公開講座開催

7月16日(土)にオンラインにて、本学薬学部微生物学教室・久下周佐教授による「新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の効果と期待」と題した公開講座を実施いたしました。学都仙台コンソーシアムは、大学等の高等教育機関と市民・企業・行政が互恵的な関係を結び、相互に発展の機会を創造していく「知が連携する学都仙台」をめざして設立された団体で、本学も加盟しています。

公開講座では、国内外で開発が進む新型コロナウイルス感染症の経口治療薬について研究する久下教授が、その特徴等について、専門家としての視点から分かりやすく解説されました。参加者は大変熱心に聴講されており、理解を深めていただくことができました。

高大連携事業に係る公開授業開催

高大連携事業に係る公開講座は、高校生が大学における高度な教育・研究に触れることにより、学問に対する興味・関心を持ち自ら学ぶ意欲を高めその能力の伸長を図るとともに、主体的な進路選択を行うことができるよう、宮城県教育委員会と在仙大学との協定により平成16年度から実施されています。

今年度は、薬学部・医学部の教員4名による公開講座を8月20日(土)に開催しました。当日は高校1年次から3年次までの74名の皆さんが熱心に受講していました。

今年度開講した講義は次の通りです。

「薬学から考える食と睡眠の重要性」
薬学部・薬理学教室 准教授 八百板 富紀枝

「腎臓病学」
医学部・内科学第三(腎臓内分泌内科)教室 教授 森 建文

「天然物化学」
薬学部・天然物化学教室 教授 内田 龍児

「心臓の手術について」
医学部・心臓血管外科学教室 教授 川本 俊輔



八百板准教授の講義の様子



森教授の講義の様子



内田教授の講義の様子



川本教授の講義の様子

授業・実習の実施状況

医学部では、コロナ禍においても学生の安全と心身の健康を第一に考えつつ、教育の質を落とさずに学習機会を確保することを目標に掲げています。後期の授業では、原則として対面での授業実施に努めております。

1～2年次学生は小松島キャンパスにおいて、3年次学生は福室キャンパスにおいて、実習科目を含め対面授業を実施しています。

また、4年次学生は、後期から「診療科臨床実習」が開始され、福室・附属病院での実践的な臨床実習に励んでいます。5年次学生も、臨床実習の全科ローテーションを終え、10月中旬から選択科

における臨床実習を開始しています。

6年次学生は、「統括講義」において、これまでに修得した知識・技能等を総括し、いよいよ来年2月に実施される医師国家試験に向けた準備を着実に進めています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について、予断を許さない状況ですが、今後も安全を最優先に、学生の学びの歩みを止めることがないよう、教職員一丸となって日々学生の支援を行ってまいります。



小松島キャンパスの対面授業の様子



福室キャンパスの対面授業の様子

白衣授与式

医学部医学科では4年次後期から始まる臨床実習を前に、9月30日(金)福室キャンパスプラタナスホールで、4期生97名の白衣授与式を挙行了しました。昨年に引き続き参加者を最小人数とし、感染対策を徹底した上での式となりました。

高柳理事長・学長、大野医学部長、近藤統括病院長からの激励の挨拶に続き、代表学生に白衣が手渡され、全員が本学のロゴ・大学名が入った白衣に袖を通しました。その後、学生自ら考えた宣誓文を代表学生が宣誓し、「実習に出させて頂ける環境や周囲の人に感謝を忘れず、臨床実習に臨みます」と力強く決意表明し、式典を締めくくりました。



白衣授与式の様子

いわき市医療センターでの地域臨床実習を終えて

私は福島県いわき市医療センターにて6週間の地域臨床実習をさせていただきました。産婦人科、救命救急センター、消化器内科を2週間ずつ回りました。いわき市医療センターは県内で広大な面積をもついわき市に加え、隣接する相双地区や北茨城市も含めた地域住民に対して、高度急性期・高度先進医療を提供しています。また、多くの病院等と連携し、地域医療を支える中核病院としての役割も担っています。そのため、実習ではcommonな疾患から稀な疾患まで様々な患者さんに会いました。外傷により高度な急性期医療を必要とする患者さんの集中管理や治療、リスクのある妊婦さんの出産までの管理や帝王切開など、大規模病院ならではの症例を数多く目にしました。各科の先生方には患者さんの背景や手技など幅広く教えていただきました。

地域医療の最後の砦として奮闘する病院で、そこにやってくる患者さんを指導医と一緒に診る中で感じたことは、患者さんが最適な治療を受け、適切なタイミングで住み慣れた地域に戻って生活できるために、色んなレベルでの協働や連携が欠かせない

ということでした。実習を通して、私も福島県で周りと協力しながら医療に従事していきたいという思いを強くしました。

医学部医学科6年 豊福 智美



実習生の集合写真

臨床実習後OSCE実施

卒業要件の一つである臨床実習後OSCEを11月5日(土)に医学部6年次生に対し実施いたしました。

臨床実習後OSCEは医学生が診療参加型臨床実習により、医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を修得していることを確認するための客観的臨床能力試験です。

試験は主訴から病態を推測し、そのための医療面接を行い、

医療面接で得た情報を鑑別診断につなげるために身体診察を行い、その思考過程を過不足なく指導医に報告できるかどうかを評価します。限られた時間で医療面接及び身体診察の優先順位をつけて効率よく行うことが求められます。

今年度の試験実施にあたっては新型コロナウイルスの感染対策に十分配慮したうえで行われ、滞りなく終了しました。

医師国家試験対策

令和5年2月4日(土)・5日(日)の2日間、第117回医師国家試験が実施されます。

合格発表は令和5年3月16日(木)午後2時です。厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号が掲載され発表となります。

2日間の問題数は400問(内訳:必修問題100問(一般問題50問、臨床実地問題50問)、各論および総論問題300問(一般問題100問、臨床実地問題200問))の予定です。

なお、前回第116回医師国家試験の合格基準は、

(1) 必修問題の一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、総得点が、158点以上/197点

(2) 必修問題を除いた一般問題及び臨床実地問題については各々1問1点とし、総得点が、214点以上/297点

(3) 禁忌肢問題選択数は、3問以下

以上3つの基準を満たすこととされ、合格率は全体の91.7%(うち新卒者95.0%)となりました。

6年次後期科目「統括講義」全540コマでは、6年間の総括として、各専門領域の先生が医師国家試験でよく出題される領域や学生の弱点領域を中心に講義を行っています。

医学部 後期行事予定

8月	
8月22日(月)	6年次後期授業開始
8月29日(月)	1年次・2年次後期授業開始
8月29日(月)～9月2日(金)	1年次後期選択必修科目履修登録期間

9月	
9月26日(月)	3年次・4年次後期授業開始
9月30日(金)	4年次白衣授与式

10月	
10月1日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台会場)
10月9日(日)・10日(月・祝)	大学祭
10月21日(金)	6年次統括試験(1回目)

11月	
11月5日(土)	6年次共用試験Post-CC OSCE本試験
11月30日(水)	第2期授業料等納付金納入期限

12月	
12月1日(木)	東北大学・東北医科薬科大学 合同慰霊祭・遺骨返還式

12月16日(金)	6年次統括試験(2回目)
12月26日(月)～1月3日(火)	4年次・5年次・6年次冬季休業
12月27日(火)～1月3日(火)	3年次冬季休業
12月28日(水)～1月5日(木)	1年次・2年次冬季休業

1月	
1月6日(金)～13日(金)	1年次後期定期試験期間
1月13日(金)	6年次卒業判定
1月16日(月)～23日(月)	3年次後期追再試験期間
1月16日(月)～2月16日(木)	2年次後期追再試験期間

2月	
2月4日(土)・5日(日)	医師国家試験
2月6日(月)～14日(火)	1年次後期追再試験期間
2月27日(月)～3月8日(水)	1年次・2年次・3年次進級判定試験実施期間

3月	
3月8日(水)	卒業証書・学位記授与式
3月16日(木)	進級判定

※ 定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。

臨床研修について(医学部1期生)

医学部1期生として令和4年3月に卒業し、現在岩手県の盛岡市立病院にて1年次研修医として研修をしております。研修医となり、内科系診療科から始めて約半年以上が経過しましたが、自分の不甲斐なさを実感する日々です。岩手県の臨床研修制度は、県内12施設ある研修指定病院での「たすきかけ制度」が充実しており、私もこの制度を利用し沿岸の岩手県立宮古病院で1か月間研修させていただきました。内陸と沿岸での違いはもちろん、自病院以外の病院を体験出来るなど、色々な研修を行えるのが大きな魅力と感じています。3年目からは、修学資金医師としての義務年限が始まるため宮城県に戻ることとなります。宮城県の医療に貢献できるように、この2年間で一回り大きくなれるよう努力していきたいと思っております。

医学部医学科1期生 海賀 俊征



臨床研修の様子



薬学部後期オリエンテーションの開催

薬学部後期オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、薬学科1～4年生および生命薬科学科1～3年生を対象に9月26日(月)に実施しました。オリエンテーションでは、組担任から前期の学業成績表が配付され、前期を振り返るとともに、後期の目標を設定し、自身の学修や行動を見直す機会となりました。また、新型コロナウイルス感染症の感染対策をはじめとし、学生生活における注意喚起として、薬物乱用防止、SNSトラブルの防止等についても説明を行いました。

制限の緩和に伴い、後期からは全体的に対面授業が再開され、学生は期待に満ちた面持ちでオリエンテーションに臨んでいま

した。学生の皆さんが充実した大学生活を送ることができるよう、教職員一同フォローしてまいります。



オリエンテーションの様子

遠隔授業、対面授業の実施状況について

薬学部では、コロナ禍における授業・実習の実施方針について議論を重ね、今年度の授業・実習について以下のとおり実施しています。

〈授業〉

4月11日(月)より前期授業、9月9日(金)より後期授業を開始しました。前期は昨年度同様、受講人数を講義室定員の半数程度に抑えた対面授業と、遠隔授業(オンデマンド配信)併用のハイブリッド形式にて実施しました。そして後期からは、全学年において対面形式にて授業を実施しております。対面授業では、新型コロナウイルス感染防止の観点(飛沫・接触感染防止等)から、講義室内の常時換気、入退出時の手指消毒、マスク着用の徹底等を厳密に講じ、実施しています。併せて、日々の体調管理、検温報告等も行っております。なお、薬学科6年次、および生命薬科学科については、上記感染症対策を徹底した上で、前期から対面形式にて授業を実施しております。

〈実習〉

4月12日(火)より演習・実習(卒業研究を含む)については対面形式にて実施しています。実習中、学生は個人防護具(PPE:マスク、ゴーグル、手袋、白衣等)を着用し、そのうえで日々の体調管理、検温報告等、感染防止対策を講じて臨みました。



対面授業の様子



薬剤師国家試験対策

令和5年2月18日(土)、19日(日)の両日第108回薬剤師国家試験が実施されます。問題数は「必須問題」が90問、「一般問題(薬学理論問題)」が105問、「一般問題(薬学実践問題)」が150問、計345問です。

【合格基準】

以下のすべてを満たすこと。なお、禁忌肢の選択状況が加味されます。

①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。

②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること。

第108回薬剤師国家試験の合格発表は令和5年3月22日(水)です。厚生労働省ホームページ、資格・試験情報のページに受験地及び受験番号が掲載されます。

今年度の薬剤師国家試験対策として、薬学科6年生を対象に令和4年10月17日(月)から11月18日(金)まで外部講師による特別補講Iを実施し、明年2月上旬には卒業予定者を対象に特別補講II(任意・講習料は有料)を実施する予定です。

薬学科6年次卒業研究発表会

薬学科6年生292名を対象にした卒業研究発表会が去る7月25日(月)、26日(火)に本学教育研究棟(ウェリタス)アトリウムにて行われました。卒業研究は5、6年次での2年間の研究成果をまとめたもので、発表は一人1枚のパネルを使いポスター形式で行われます。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じ、3年ぶりに対面

形式による実施となりました。当日の発表の際には多くの教員、学生が集まり、活発な質疑応答が行われました。学生は、本発表会において出た意見、質問等を含めて論文を完成させ、9月末までに提出しました。



卒業研究発表会(教育研究棟)

薬学科5年次実務実習成果報告会

9月3日(土)に本学教育研究棟にて薬学科5年次実務実習の成果報告会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で参加者を学内関係者に限定し、3年ぶりに対面形式による実施となりました。今年度第1回目は、2月からの薬局実習と5月からの病院実習を行ったAグループの学生88名がポスター発表を行い、学生同士で自分が学んだことを伝え合うと共に、学内教員への発表を通じて実りある成果報告の場となりました。

今年度第2回目はBグループの学生127名が11月12日(土)に実施し、第3回目はCグループの学生85名が令和5年2月25日(土)に発表を行う予定です。



実務実習成果報告会の様子(Aグループ)

第55回日本薬剤師会学術大会

令和4年10月9日(日)・10日(月・祝)に仙台国際センターにおいて『第55回日本薬剤師会学術大会』が開催されました。今回の大会は山田卓郎大会運営委員長をはじめとした多くの本学OBや現役教員が運営に関わりましたが、新型コロナが冷めやらない中にも拘わらず参加者7,264名(現地参加4,880名)の盛況な大会となりました。

本学教員からは医学部の賀来満夫特任教授による特別記念講演ならびに薬学部長 吉村祐一教授による分科会での講演がありました。また、本学在校生からは薬学科の5年生2名がシンポジウムで実務実習における成果を発表したほか、6年生2名が一般演題でポスター発表しました。



日本薬剤師会学術大会の様子



薬学部 後期行事予定

8月	
8月22日(月)～11月6日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅲ期)
9月	
9月6日(火)・7日(水)	薬学科4年次CBT体験受験
9月9日(金)	後期授業開始
9月26日(月)	後期オリエンテーション
10月	
10月1日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台)
10月3日(月)・4日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第3回模擬試験
10月5日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
10月9日(日)・10日(月・祝)	大学祭
10月15日(土)・16日(日)	在学生保護者教育懇談会(秋田、青森)
10月17日(月)～11月18日(金)	薬学科6年次国試対策特別補講I
11月	
11月4日(金)	薬学科4年次薬学実力試験(CBT対策)
11月5日(土)・12日(土)	薬学科1・2年次、生命薬科学科1・2年次中間試験
11月21日(月)～2月12日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅳ期)
11月21日(月)・22日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第4回模擬試験
11月24日(木)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
11月30日(水)	第二期授業料等納付金納入期限

12月	
12月10日(土)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE)
12月22日(木)	後期授業終了
12月23日(金)～1月5日(木)	冬季休業
1月	
1月6日(金)・7日(土)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT)
1月10日(火)～19日(木)	後期試験[薬学科4年次 1月10日(火)～18日(水)]
1月30日(月)	後期成績Web公開(薬学科4年次のみ)
2月	
2月1日(水)	後期成績Web公開(薬学科4年次以外)
2月8日(水)～15日(水)	後期追・再試験[薬学科4年次 2月6日(月)～13日(月)]
2月14日(火)・16日(木)	実務実習事前講習会(薬学科4年次)
2月15日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE追・再試験)
2月18日(土)・19日(日)	第108回薬剤師国家試験
2月24日(金)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT追・再試験)
3月	
3月8日(水)	卒業証書・学位記授与式
3月14日(火)	進級判定

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合があります

令和4年度就職(進学)状況

就職・採用活動については、例年どおり、広報活動(就職情報サイトのオープン、会社説明会等)の開始時期は、3月、採用試験の開始時期は、6月となっております。

本学では、薬学科6年生292名、生命薬科学科4年生11名、大学院博士課程前期(薬科学専攻)2年生5名の計308名が、就職あるいは大学院進学を目指し活動を行っております。

就職希望者にとっては、昨年同様新型コロナウイルスの影響が懸念されたところですが、12月8日(木)現在の各学科の進路状況は例年並みの高い内定率となっております。

【薬学科】

製薬会社6名、公務員7名、病院48名、薬局156名、ドラッグストア49名、大学院進学5名の計271名が進路を決定しており、進路決定率は92.8%(昨年85.5%)となっております。病院内定者は、16.4%と前年同時期(18.2%)よりも減少し、薬局内定者は、53.4%と前年同時期(50.0%)よりも増加しております。また、ドラッグストア内定者も16.8%と前年同時期(14.9%)よりも増加しております。

【生命薬科学科】

就職希望者6名について、製薬会社3名(MR1名、生産技術職1名、品質管理職1名)、SMO2名、情報通信業1名の6名全員が就職内定しております。また、進学希望者5名のうち4名が大学院進学(本学大学院1名)を決定しております。

【大学院】

薬科学専攻博士課程前期課程については、就職希望者2名とも製薬会社(生産技術職)に就職内定しております。また、進学希望者2名についても本学大学院、他大学に進路を決定し、昨年に引き続き進路決定率は100%となっております。薬科学専攻博士課程前期課程及び後期課程には留学生在籍しておりますが、コロナ禍により入学が遅れたため、次年度も引き続き本学に在籍予定です。大学院薬学専攻博士課程においては、社会人を除く学生1名について、病院への進路が決定しております。

なお、進路未決定の学生の皆さんに対して、引き続き支援を行っておりますので学務部キャリア支援課を積極的にご利用ください。

令和4年度薬学部キャリア・就職支援行事予定

10月

- 10月3日(月) 履歴書・エントリーシートフォローアップ講座 (Zoom講座)
- 10月15日(土) 学内公務員講座(有料:令和5年7月迄) (web講座)
- 10月17日(月) 就職マナー講座Ⅱ(就活メイク講座) (Zoom講座)
- 10月17日(月)~ 就職活動体験発表会(動画配信)
- 10月24日(月) 面接試験対策講習会①(面接試験対策講義・模擬面接) (Zoom講座)
- 10月24日(月) 適性検査R-CAP(web受検)

11月

- 11月7日(月) 業界・仕事研究セミナー(動画配信)
- 11月7日(月) SPI3解説講座(動画配信)
- 11月8日(火) インターンシップ事後講習会(対面)
- 11月15日(火) 就職活動直前講座(自己分析) (Zoom講座)
- 11月17日(木) 面接試験対策講習会②(グループディスカッション、個人面接:希望者対象) (Zoom講座)
- 11月18日(金) 製薬会社等内定者との懇談会(対面)
- 11月21日(月) キャリア支援講座講演会 (Zoom講座)

12月

- 12月5日(月) R-CAP解説講義 (Zoom講座)

1月

- 1月25日(水) 就職ガイダンス-就活直前編- (生命薬科学科3年) (Zoom講座)

2月

- 2月17日(金) 就職ガイダンス・インターンシップ説明会(薬学科4年) (Zoom講座)
- 2月20日(月) 就職ガイダンス-就活直前編- (薬学科5年) (Zoom講座)
- 2月21日(火) 就職活動直前講座 (ES・面接対策等) (Zoom講座)

3月

- 3月予定 合同就職説明会(日程・実施方法未定)



就職活動体験記



薬学部薬学科6年
磯 沙織

私は、4年生後期の研究室を決めるタイミングで就職活動を意識し始めました。大学入学時は、将来薬剤師になるだろうと漠然と考えていましたが、生命薬科学科の友人から製薬業界の話聞いたことでMR職に興味を持ち、MR職に比重をおいた就職活動を行いました。

初めにMRをしている先輩や友人に連絡を取り、製薬業界やMRの就職活動方法についての情報収集を行い、5年次の夏にインターンシップに参加しました。インターンシップでは、チーム制疑似体験ワークを通して、MRとはどんな仕事なのか、何が求められるのかを学びました。このMR疑似体験がとても楽しくMRになりたいと強く考えるきっかけになりました。

企業研究は、その企業が他社と比較してどこに力を入れているのか、何が強みかに着目して行いました。企業ホームページや就活用のサイトはもちろんのこと、キャリア支援課の方に勧めていただいたOBOG訪問でたくさんのお話を聞かせていただきました。また、企業ホームページにある社内ニュースや薬品以外の事業内容、社長や人事部長のインタビュー記事に目を通し、ありきたりな志望動機や面接での回答で企業の特徴などから外れた回答をしないように丁寧に進めました。

自己分析は、企業研究と並行して行い、企業の強みや求める人物像に合わせたエピソードを用意するように意識しました。ガクチカ(学生時代に力を入れたこと)では目標達成までのプロセスをしっかりと話せるようにし、失敗したことや小さい出来事すべてを書き出し、面接での深堀りに対応できるように準備しました。

OBOG訪問では、会社についての質問だけではなく就職活動の相談をさせていただきました。書き上げたエントリーシートを見ていただき、数々の面接を突破した先輩からみて、どのような質問をされると思うか、そして先輩であればどのような回答をするのか教えていただきました。逆質問の内容や面接の際に気を付けることなど、就職活動をする上で気になることがあればすぐに

連絡をとり、最終面接の直前までサポートをしていただいたこともありました。

面接対策に関しては、就活サイトやキャリア支援課に置いてある先輩の就職活動記録を活用して、過去の質問内容を把握しそれに対する回答を作成しました。回答を作成することで、面接時に余裕ができハキハキと話せると同時に、質の高い自己分析ができたと感じています。また、どの企業でも一次面接、二次面接、最終面接において一貫性を持つことを意識しました。それぞれ違う面接官から様々な視点で質問、深堀りをされますが、どのような回答をしたのかは記録され面接官の中で全て共有されています。そのため、プレを生まないように面接終了後の振り返りと自然体で話すことを意識しました。振り返りでは面接の質問内容と自分の回答をまとめ、次の面接前に確認しました。自然体で話すためには、難しい言葉や敬語ではなく自分の言葉に言い換えたり、過剰なアピールはしないように意識しました。実際の面接は想像以上に緊張感があり、その中で深堀りをされた際に、話の具体性が欠けエピソードの辻褄が合わなくなる可能性が高く、悪い印象を与えてしまいます。実際に面接後のフィードバックにおいて、回答内容の一貫性は重要視していると教えていただきました。面接本番で一貫性を保ちながら受け答えができるよう面接の練習を行うことは大切だと感じました。

結果として、私は第一志望であった第一三共株式会社より内定をいただくことができました。企業の強みに合わせたエピソード作成や面接対策など大変なことは多くありましたが、自分のことを深く理解する良い機会になったと感じています。就職は人生において大きな選択であり、その分大きな不安や迷いを感じてしまうことがあるかもしれませんが、そんなときは友人や先輩、家族に相談しゆっくり時間をかけて自分の考えを整理すると良いと思います。悔いのないよう精いっぱい就職活動を行ってください。

最後に、就職活動中にお世話になりましたキャリア支援課の皆様、先生方、先輩や友人に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

インターンシップ体験記



薬学部生命薬科学科3年
安達 佳歩

私は以前から、明確な治療法が無く対症療法している親戚がいたため、薬に深く関わる職種に就きたいと考えていました。しかし、薬に関係する職種は数多くあり、一つ一つ知っていくと考えるため、授業科目であった「インターンシップ」を履修しました。私は、日本赤十字社東北ブロック血液センターの3日間のインターンシップに参加しました。そこで学んだことは自分の視野を広げる大切な経験となりました。

インターンシップ1日目はZoomでの講義で、血液センターで行われている事業、献血について学び、社員の方の想いや作業工程の大切さを知りました。作業工程の順序は前後してはならず、医薬品となる血液は厳重な管理のもと製造されていることを学びました。社員の方々は、直接患者さんと顔を合わせることはないけれど、常に苦しんでいる人たちを救いたいという想いをもって働いています。それを聞いて、医療職でなくとも患者さんの命の安全に携われる仕事があるのだと感じました。

2日目からは対面で行い、職場内の見学、ディスカッション、先輩との座談会がありました。ディスカッションでは、模擬バックを用

いて3種類の製剤ごとに異なる色の度合いや異常を確認し、輸血に使用できる血液製剤が否かを討論しました。多くが機械での作業だと思っていましたが、ディスカッションで行ったように人の目で確認したり、製造工程でも一つ一つ手作業で行ったりしているものが多くあり驚きました。またディスカッションを行うのは初めてだったので、自信を持って意見を言えない場面も多くあり、自分の課題点に改めて気付きました。

3日目は、仕事体験を行いました。生命薬科学科の先輩方が就いている職種の1つであるMRになりきって、医師役の職員に血液製剤の使い方について説明しました。私はそもそも血液製剤が医薬品だということを知らず、日本赤十字社にMRという業務があることさえ知りませんでした。命に直結する仕事である以上、背負う責任が重く、重要なことを端的かつ的確に医師に説明することが大切だと教えていただきました。それと同時にMRとしての発言の責任も感じました。

今回インターンシップに参加し、社員の方々のお話を聞くことで、初めて知ることも多くあり、職種についての理解が深まりました。以前は就きたい職業がまとまらず悩んでいましたが、より明確になったため今回発見した自分の課題点を改善しながら、進路を考えていきたいと思っています。

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼)

毎年、二松会から図書館に図書購入費の御支援をいただいております。本年11月までに次の図書を購入いたしましたのでご報告いたします。二松会・ご父母の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和4年11月末までの購入分】

- ・「領域別既出問題集 改訂第10版 全9巻」
- ・「CBT・医師国家試験のためのレビューブック シリーズ 改版分」など
計41種 金額 291,553 円

引用データベース「Web of Science」導入

令和4年4月から、引用データベース「Web of Science」を導入いたしました。

本データベースは、出版社から独立した世界で最も信頼されている引用データベースであり、最高クラスの発行物/引用データにより信頼性の高い発見、アクセス、評価を実現する強力な研究検索エンジンとなっております。

契約施設(大学・附属病院)のネットワークに接続した端末からご利用いただけますので、ぜひご活用ください。

大学院より

入試センターより

令和5年度大学院医学研究科入学者選抜日程

医学専攻博士課程

試験区分	出願期間	試験日	合格発表日
一次募集	一般入学試験 令和4年10月11日(火)	令和4年11月25日(金)	令和4年12月8日(木)
	社会人入学試験 ～令和4年10月31日(月)		
二次募集	一般入学試験 令和4年12月5日(月)	令和5年1月27日(金)	令和5年2月9日(木)
	社会人入学試験 ～令和5年1月6日(金)		

令和5年度大学院薬学研究科入学者選抜結果

1. 薬科学専攻博士課程前期課程

試験区分	募集定員	志願者	合格者	入学手続完了者
推薦入学試験	10	1	1	1
一般入学試験(一次募集)	10	1	0	0
合計	20	2	1	1

2. 薬学専攻博士課程

試験区分	募集定員	志願者	合格者	入学手続完了者
一般入学試験(一次募集)	3	6	6	6
合計	3	6	6	6

令和5年度大学院薬学研究科入学者選抜日程

1. 薬科学専攻博士課程前期課程	2. 薬科学専攻博士課程後期課程	3. 薬学専攻博士課程
一般入学試験(二次募集) (社会人入学試験を含む) 募集定員：若干名	一般入学試験 (社会人入学試験を含む) 募集定員：若干名	一般入学試験(二次募集) (社会人入学試験を含む) 募集定員：若干名
出願期間：令和5年1月6日(金)～13日(金) 試験日：令和5年1月27日(金) 合格発表日：令和5年2月9日(木)		

薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)実施結果

11月19日(土)、本学小松島キャンパスにおいて、薬学部学校推薦型選抜(指定校制・公募制)を実施いたしました。また、新型コロナウイルス感染症等への対応として、学校推薦型選抜(公募制)の追試験を12月3日(土)に実施いたしました。指定校制の受験者は薬学科44名、生命薬科学科4名、公募制の受験者は薬学科112名、生命薬科学科6名でした。合格者は、指定校制は薬学科44名、生命薬科学科4名、公募制は薬学科82名、生命薬科学科6名となりました。

令和5年度入学者選抜日程

令和5年度の入学者選抜日程(薬学部学校推薦型選抜除く)は、下記のとおりです。また、下記日程の他、新型コロナウイルス感染症等への対応として、追試験を設けます。

■ 医学部/医学科(6年制)

試験区分	試験日
一般選抜	一次試験 令和5年1月21日(土)
	二次試験 (一次試験合格者のみ) 令和5年2月4日(土)または5日(日)
大学入学共通テスト利用選抜	一次試験 本学での個別試験は課さない
	二次試験 (一次試験合格者のみ) 令和5年3月2日(木)

■ 薬学部/薬学科(6年制) 生命薬科学科(4年制)

試験区分	試験日
一般選抜	(前期) 令和5年1月21日(土)
	(後期) 令和5年2月18日(土)
大学入学共通テスト利用選抜	(前期) 本学での個別試験は課さない
	(中期)
	(後期)

東北医科薬科大学同窓会東京支部の生涯学習研修会(第37回)を再開しました!

新型コロナウイルス感染症大流行により中断を余儀なくされていた同窓会東京支部の生涯学習研修会を、令和4年10月14日(金)に再開しました。今回の第37回研修会は同感染症の終息が確実に見通せなかったため、従来の集合(対面)研修ではなくZoomを利用したオンライン研修(WEB研修)となりました。東京支部会員にEメールで開催案内を配信し、参加を呼びかけました。また、同窓会事務局に御相談し大学ホームページにWEB研修の案内を掲載していただきましたため、東京支部以外の方からも視聴申し込みがありました。今回は、「新興感染症、再興感染症」をテーマとして、東北医科薬科大学病院感染制御部部長・病院教授遠藤史郎先生に講演をしていただきました。新型コロナ

ウイルスのこれまでの経過と今後の課題の他、幅広く感染症に係る有意義な聴講となり、講演後活発な質問が行われ大変盛り上がりました。お忙しいところ時間をとっていただきました遠藤先生に心よりお礼申し上げます。今後の研修会は順次、同窓生薬剤師に役立つ話題として主に本学医学部や大学病院の先生方に講演をお願いする予定でいます。今回はWEB研修でしたが、状況が許せば集合研修をも考えていきたいと思っております。今回の研修会再開につき準備に関わった東京支部幹事の方及び広報にお世話になりました同窓会事務局に感謝申し上げます。(東京支部長 渡邊善照(昭和48年卒)記)



叙勲・表彰

卒業生が受章(受賞)されました。心からお祝い申し上げますとともにますますのご活躍を心より祈念いたします。

◆秋の叙勲 令和4年度

(厚生労働省関係)

【旭日双光章】

【薬事功労者】

柴田 久喜 様 元 青森県薬剤師会 専務理事

昭和49年卒業(大学22回生)(青森県)

(文部科学省関係)

【瑞宝双光章】

【学校保健功労者】

日沼 義一 様 元 学校薬剤師

昭和36年卒業(大学9回生)(北海道)

白石 恵一 様 現 学校薬剤師

昭和42年卒業(大学15回生)(岩手県)

石田 良太郎 様 元 学校薬剤師

昭和33年卒業(大学6回生)(秋田県)

◆高齢者叙勲 令和3年度

【旭日双光章】

【薬事功労者】

小野寺 郁夫 様 元 仙台市薬剤師会副会長

昭和31年卒業(大学4回生)(宮城県)

◆高齢者叙勲 令和4年度

【旭日双光章】

【薬事功労者】

守 睦夫 様 元 岩沼薬剤師会会長

昭和32年卒業(大学5回生)(宮城県)

【瑞宝双光章】

【学校保健功労者】

平塚 照義 様 元 学校薬剤師

昭和34年卒業(大学7回生)(福岡県)

◆薬事功労者厚生労働大臣表彰

【薬剤師会関係】

渡邊 秀一 様 元 北海道薬剤師会小樽支部 副支部長

昭和55年卒業(大学28回生)(北海道)

伊藤 博次 様 元 青森県薬剤師会 常務理事

昭和60年卒業(大学33回生)(青森県)

川口 さち子 様 元 岩手県薬剤師会 理事

昭和53年卒業(大学26回生)(岩手県)

鈴木 常義 様 現 宮城県薬剤師会 監事

昭和48年卒業(大学21回生)(宮城県)

相原 由香 様 現 山形県薬剤師会 常務理事

昭和56年卒業(大学29回生)(山形県)

◆文部科学大臣表彰

【学校保健及び学校安全表彰】

松本 健春 様 帯広柏葉高等学校 学校薬剤師

昭和53年卒業(大学26回生)(北海道)

鶴見 勝 様 柴田高等学校 学校薬剤師

昭和44年卒業(大学17回生)(宮城県)

西村 正一 様 元 山辺町立山辺中学校 学校薬剤師

昭和49年卒業(大学22回生)(山形県)

◆宮城県文化の日表彰

【教育文化功労賞】

鎌田 則子 様 現 学校薬剤師

昭和42年卒業(大学15回生)(宮城県)

◆山形県保健衛生関係功労者山形県知事表彰

【薬事功労者】

羽太 光範 様 現 山形県病院薬剤師会長

昭和63年卒業(大学36回生)(山形県)

同窓会からの新型コロナ感染症対策のための学習環境改善支援について

新型コロナウイルス感染症の影響は今年で3年目となりました。後期授業は全面的に対面授業が始まり、久しぶりに全学生が登校しキャンパスに活気が戻って来ました。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、健康管理や検温、講義室内の常時換気、入退出時の手指消毒、マスク着用の徹底等が厳密に講じられています。

この度、同窓会から学習環境改善支援として、講義室内の換気の効果を高めるためのサーキュレーターと、体調不良の学生の処置を行う保健管理センター内に抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置を寄贈し、設置することになりました。



サーキュレーター

二松会総会の開催について(書面表決)

今年度の二松会総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、会員の皆様にご参集いただいての開催は中止とし、郵送による書面表決という形にて開催いたしました。

結果につきましては以下のとおりです。

※なお、下記の結果につきましては、9月22日付にて大学ホームページにも掲出しております。

記

1. 日程 書類発送：令和4年8月10日(水) - 提出締切：令和4年8月31日(水)
2. 書類発送数 2,553通
3. 返送数 1,024通(返送率:40.0%)
4. 各議案に対する回答

議案	賛成	反対	無回答	賛成率
第1号議案 令和3年度収支決算	1,017	2	5	99.3%
第2号議案 令和4年度事業計画	1,021	1	2	99.7%
第3号議案 令和4年度予算	1,020	1	3	99.6%
第4号議案 役員の変更	1,021	1	2	99.7%
第5号議案 退任役員への感謝状並びに記念品の贈呈について	1,019	1	4	99.5%

5. 決議結果
第1号から第5号までの議案について、過半数の賛成により可決されました。
※二松会会則 第九条に準じ、ご提出いただいた書面表決書により、過半数の賛成をもって可決とさせていただきます。
6. いただいたご意見について
会員の皆様より、二松会の運営および大学に対する励ましのお言葉を頂戴するとともに、ご指摘等に関するご意見も複数いただきました。
皆様からいただいたご意見につきましては、大学とも共有の上、本会議運営に役立たせたいと考えております。
引き続き、ご理解、ご協力の程宜しくお願いいたします。

本院より

電子カルテの更新について

平成29年2月に電子カルテが稼働して5年が過ぎ当院ではこの度、システムの更新を実施しました。

ソフトとしてはバージョンを一つ上げ、ハードとしてはOSをWindows7から10に変更しました。電子カルテ委員会の中にプロジェクト会議を設置し、コンサルの指導の下、作業を進めてきました。コロナ禍において、対面での打ち合わせ等ままならない中での更新となりましたが、職員やベンダーの皆様の尽力により、大変スムーズな切替えを行うことができました。

共に増設した自動再来受付機や医療費自動精算機の効果で、本館1階待合ホールの混雑も多少解消されています。今後も部門システムにおいて更新が想定されますが、今回同様皆様のお力を借りながら進めていきたいと思っております。



医療情報部 部長
柴田 近 教授

初診・再診時の「選定療養費」改定について

令和4年10月より「国民健康保険法等の一部を改正する法律」の施行に伴い、200床以上の地域医療支援病院(当院が該当)では自費請求である「選定療養費」が図のとおり義務化されました。当院の受診を希望する際に紹介状がない場合は選定療養費がかかります。

また、症状が安定した方は原則200床未満の病院やクリニックの「かかりつけ医」へ紹介となります。紹介の申し出を行ったにも関わらず当院の受診を希望する場合にも選定療養費がかかります。

選定療養費(税込)

【初診】 医科:7,700円 歯科:5,500円
【再診】 医科:3,300円 歯科:2,090円

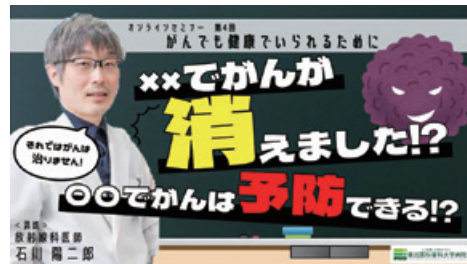
※複数診療科で該当する場合は診療科毎の請求となります。
※対象者は請求点数より200点~40点が控除されます。
(=病院の収益が増加するわけではありません。)

市民公開講座(オンラインセミナー)について

当院では従来より「市民公開講座」を対面で開催して参りましたが、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、令和3年12月より「オンラインセミナー」に開催形式を変更しました。

新たな「市民公開講座(オンラインセミナー)」では当院公式YouTubeを活用し、「がんの予防」や「胃がん検診の大切さ」等と題したテーマで、2カ月に1回の頻度で動画を配信しています。

第4回に講師を担当した放射線科の石川陽二郎 医師の動画は、約1万2千回視聴を記録しており、多くの方にご好評いただいております。今後も患者さんに役立つ様々な情報を提供して参りますので、是非ご視聴いただければ幸いです。



YouTubeの動画はこちらから

若林病院より

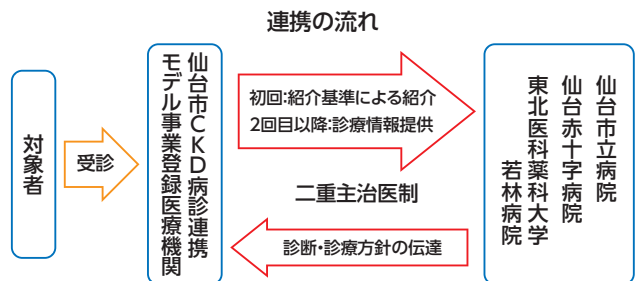
仙台市CKD病診連携モデル事業への参画について

“新たな国民病”といわれるCKD(慢性腎臓病)は、我が国成人の約8人に1人が罹患しているといわれ、進行すると腎不全を引き起こし人工透析や腎移植が必要となるばかりか、脳卒中や心筋梗塞などの原因になります。

仙台市においてもCKD患者数や人工透析患者数が年々増加しており、CKD重症化予防・人工透析新規導入患者数減少を目的として、令和4年度から「仙台市CKD(慢性腎臓病)病診連携モデル事業」がスタートしました。当院は腎臓専門医の医療機関3病院の一つとしてこの事業に参画しています。(右図参照)

具体的には、若林区と太白区(今後対象地域を拡大予定)のCKDリスクのある患者さんに対して、早期からかかりつけ医と腎臓専門医が連携して診療にあたることで、CKDの重症化や人工透析の導入を予防する取組みです。

CKDは、ほとんど自覚症状がないまま進行する一方、尿検査や血液検査での早期発見が可能です。各種健診やこの事業などの取組みが広がることで、重症患者や人工透析患者数の減少が期待されます。



遺伝子検査サービスGenovision Dock®(ゲノビジョン ドック)の対象拡大

当院健診センターでは、令和3年度から遺伝子検査サービス(名称「Genovision Dock®(ゲノビジョン ドック)」)の取扱いを始めました。これまで、一部の法人から受託する人間ドックのオプション検査に限定した取扱いでしたが、令和4年7月からは受検者の対象を拡大し、当センターで人間ドック・健診を受けられるほとんどの受検者様にオプション検査としてお選びいただけるようになりました。

この遺伝子検査は、受検した際に採取した血液を用いて検査するもので、生活習慣病(がん など)、脳や神経の病気、血管や内臓の病気など、約90の疾患についてのリスクと最先端の予防法がわかるものです。

生活習慣改善のきっかけとする利用者の拡大を目指しております。

学内人事

【医学部】

〔新採用〕

放射線医学	助手 寺村 聡司 <令和4年7月1日付>
放射線医学 眼科学	助手 柳垣 聡 助手 柳町 真希 <令和4年10月1日付>
内科学第三(血液・リウマチ科)	助手 熊谷 輝 <令和4年12月1日付>

〔昇格〕

外科学第一(消化器外科)	医師 → 准教授 辻仲 真康
内科学第一(呼吸器内科)	医師 → 講師 光根 歩
内科学第二(糖尿病代謝内科)	医師 → 講師 宗像 佑一郎
外科学第一(消化器外科)	助手 → 助教 佐藤 好宏 <令和4年10月1日付>

〔退職〕

放射線医学	助教 古積 麻衣子
内科学第三(血液・リウマチ科)	医師 永谷 勝也 <令和4年6月30日付>
内科学第一(循環器内科)	講師 中野 陽夫
老年神経内科学	講師 菊池 大一
内科学第一(循環器内科)	講師 福井 重文 <令和4年9月30日付>
耳鼻咽喉科学	准教授 八木沼 裕司 <令和4年10月31日付>

令和4年度外部資金獲得状況

令和4年10月31日時点
※契約済、今年度入金予定の分を含む

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省)

(単位:円)

	薬学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	13	31	44	4
直接経費	19,600,000	35,200,000	54,800,000	4,925,000
間接経費	5,880,000	10,560,000	16,440,000	1,477,500
合計	25,480,000	45,760,000	71,240,000	6,402,500

	医学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	25	32	57	25
直接経費	32,000,000	36,000,000	68,000,000	5,520,000
間接経費	9,600,000	10,800,000	20,400,000	1,656,000
合計	41,600,000	46,800,000	88,400,000	7,176,000

	教養教育センター・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	2	3	2
直接経費	600,000	1,500,000	2,100,000	1,100,000
間接経費	180,000	450,000	630,000	330,000
合計	780,000	1,950,000	2,730,000	1,430,000

	その他・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	2	3	0
直接経費	1,100,000	1,200,000	2,300,000	0
間接経費	330,000	360,000	690,000	0
合計	1,430,000	1,560,000	2,990,000	0

※その他内訳:本学附属病院職員

	大学全体・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	40	67	107	31
直接経費	53,300,000	73,900,000	127,200,000	11,545,000
間接経費	15,990,000	22,170,000	38,160,000	3,463,500
合計	69,290,000	96,070,000	165,360,000	15,008,500

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(2) 科学研究費助成事業(厚生労働省)

(単位:円)

	大学全体・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	0	0	0	8
直接経費	0	0	0	4,025,000
間接経費	0	0	0	0
合計	0	0	0	4,025,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(3) 受託研究費等

(単位:円)

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	6	15	5	26
直接経費	16,040,000	20,518,620	3,681,000	40,239,620
間接経費	3,327,000	1,661,000	409,000	5,397,000
合計	19,367,000	22,179,620	4,090,000	45,636,620

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	19	9	39	67
直接経費	144,600,000	0	31,358,250	175,958,250
間接経費	43,290,000	0	3,484,250	46,774,250
合計	187,890,000	0	34,842,500	222,732,500

	全学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	25	24	44	93
直接経費	160,640,000	20,518,620	35,039,250	216,197,870
間接経費	46,617,000	1,661,000	3,893,250	52,171,250
合計	207,257,000	22,179,620	38,932,500	268,369,120

※文部科学省共同利用・共同研究拠点事業除く

(4) 教育研究協力資金

(単位:円)

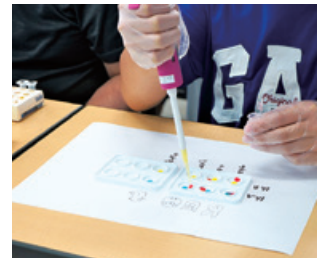
	個人	企業・団体	合計
件数	279	4	283
金額	12,030,000	32,010,000	44,040,000

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2022』に本学が初めて出展

令和4年7月17日(日)に東北大学川内北キャンパスで行われた『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2022』に、本学が初めて出展しました。「動物にも血液型ってあるの!? ～実験!動物の血液型判定～」と題して実施した本学の体験講座(薬学部 分子認識学教室 菅原栄紀講師)には、小さなお子さんから大人の方まで合計112名の参加があり大盛況でした。ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました!



サイエンス・デイ体験講座の様子



ミヤギテレビ「OH!バンドス」と東北医科薬科大学がコラボレーション

新型コロナウイルス感染拡大防止の目的で、ミヤギテレビ「OH!バンドス」と東北医科薬科大学がコラボレーションした動画が放送されています。



動画はこちらから



NHK仙台「おはよう宮城」「てれまさむね」およびミヤギテレビ「OH! バンドス」に医学部 感染症学教室の賀来満夫特任教授が出演

NHK仙台「おはよう宮城」「てれまさむね」およびミヤギテレビ「OH! バンドス」に、医学部感染症学教室の賀来満夫特任教授が出演しました。新型コロナウイルスに感染した時の備えや、身近な人がもし感染したら自宅療養をどのように過ごせば良いのか等、大切なポイントについてお話ししました。



賀来 満夫 特任教授

「仙台七夕まつり・前夜祭」における感染対策の重要性について、薬学部 臨床感染症学教室の藤村茂教授が解説した記事が、河北新報1面に掲載

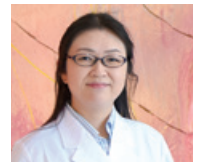
令和4年8月2日(火)の河北新報朝刊1面及びONLINE NEWSに、薬学部 臨床感染症学教室 藤村茂教授の取材記事が掲載されました。新型コロナウイルス感染が拡大する中、「仙台七夕まつり・前夜祭」における感染対策の重要性について解説しました。



藤村 茂 教授

薬学部 放射薬品学教室の山本由美助教へのインタビュー記事が日本アイソトープ協会のページに掲載

薬学部 放射薬品学教室の山本由美助教へのインタビュー記事が、日本アイソトープ協会のページに掲載されました。インタビューでは、アイソトープ・放射線の研究を始めたきっかけ、学生時代のこと、現在の研究等についてお話しした内容が掲載されました。



山本 由美 助教

医学部5年生の山田陽太君が第二著者に入った論文が出版されました

医学部5年生の山田陽太君が、第二著者に入った論文が出版されました。この研究成果は、山田君が3年次の課題研究において、神経科学教室の坂本一寛准教授の指導のもと行った研究によるものです。山田君は、理論モデルのプログラミングおよびシミュレーションにおいて貢献しました。



坂本 一寛 准教授

山田 陽太 君

医学部4年生の輿石真有さんが共著者に入った論文が出版されました

医学部4年生の輿石真有さんが共著者に入った論文が出版されました。また、令和4年4月30日(土)にWEB開催された「第42回日本内分泌学会東北地方会」では、輿石さんは筆頭演者として発表しました。この研究成果は、輿石さんが3年次の課題研究において病理学教室の中村保宏教授と端秀子助教の指導のもと行った研究によるものです。

輿石さんは9月の課題研究終了後も10月~1月の間、講義やテストの後に週1回~2回のペースで研究室に通い、研究に励みました。



輿石 真有 さん

端 秀子 助教

薬学部 薬理学教室の根本互助教が「令和3年度 日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞」を受賞

薬学部 薬理学教室の根本互助教が「令和3年度 日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞」を受賞しました。本賞は、日本薬学会薬理系薬学部会の活動に対する多大な貢献と共に、当該研究分野で優れた研究業績を有する研究者に授与されるもので、令和4年8月26日(金)に「生体機能と創薬シンポジウム2022」において、授賞式と受賞講演が行われました。



根本 互 助教(授賞式の様子)

医学部 衛生学・公衆衛生学教室の佐藤倫広助教の筆頭執筆論文が「第14回JAT賞受賞論文」に選定

一般社団法人 日本動脈硬化学会の学会誌(JAT誌)における「第14回JAT賞受賞論文」に、医学部 衛生学・公衆衛生学教室の佐藤倫広助教が筆頭で執筆した論文が選ばれました。当該雑誌に令和3年に掲載された論文のうち、特に優れた論文を表彰するものです。日本で実施される代表的な循環器疾患コホート研究のデータを統合して得られた結果を示したもので、公衆衛生的に重要な知見を発信しました。



佐藤 倫広 助教

医学部医学科4年生の小高裕貴君が第119回東北整形災害外科学会で「学生セッション 優秀演題賞」を受賞

医学部医学科4年生の小高裕貴君が、令和4年6月4日(土)に開催された第119回東北整形災害外科学会にて「学生セッション 優秀演題賞」を受賞しました。本賞は、小高君が3年次の課題研究で行った研究によるもので、「学生セッション」部門において発表された演題の中から、特に優れた発表に対して授与されるものです。



小高 裕貴 君(授賞式の様子)

薬学部 臨床薬剤学教室の鈴木裕之講師が「日本病院薬剤師会 東北ブロック 第11回学術大会 優秀ポスター賞」を受賞

薬学部 臨床薬剤学教室の鈴木裕之講師が「日本病院薬剤師会 東北ブロック第11回学術大会 優秀ポスター賞」を受賞しました。本賞は、日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会で発表された一般演題の中から授与されるものです。令和5年に福島にて開催される日本病院薬剤師会東北ブロック第12回学術大会において、受賞者シンポジウムが行われる予定です。



鈴木 裕之 講師(授賞式の様子)

教室紹介

医学部 内科学第二(消化器内科)教室(教室責任者:佐藤 賢一教授)

内科学第二(消化器内科)教室は17名の教員と将来の教員を目指す専攻医5名で構成されています。活発に意見を交換できる雰囲気のある明るい教室です。学生教育では消化器学が主な担当科目であり、本院の消化器内科、若林病院の消化器内科の診療を担当しています。本学の使命「東北地方の地域医療を支える」に基づき、当教室も地域医療に貢献できる消化器内科医を育成することを目標としています。臨床科としては、消化器全般(上下部消化管、

肝臓、胆道、膵臓)の疾患に関して高度な医療を提供する一方、多くの消化器症状を持つ方々が日常的に受診する一般病院的な診療も行っており、地域医療を担う医師の育成の場となるよう努力を続けています。内視鏡検査数や治療数は県内有数です。研究に関しては、人工知能(AI)を利用した胃癌、膵癌診断に関する研究や、炎症性腸疾患の病態解明に向けたデータの解析、また、肝癌の進展に関与する分子の同定などの基礎研究も行っています。



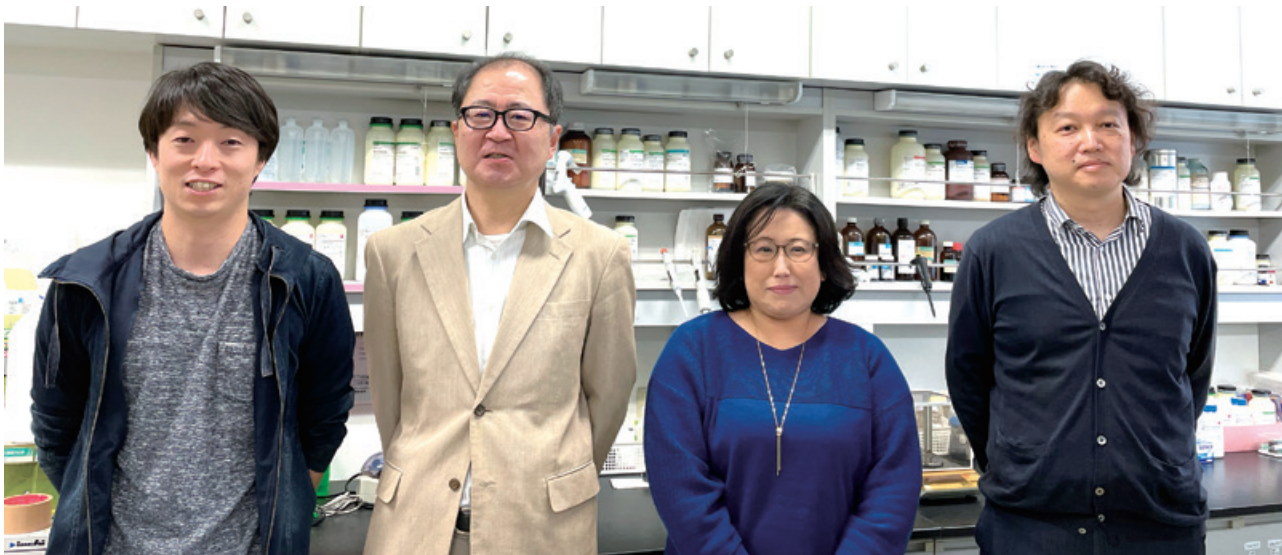
内科学第二(消化器内科)教室のスタッフ

薬学部 薬理学教室(教室責任者:丹野 孝一教授)

当教室は昭和32年に前身の薬品作用学教室として発足し、本年度で65周年を迎えました。この間、昭和55年に薬理学教室と名称を改め今日に至っております。教育活動として、薬学科および生命薬科学科の薬理学関連講義(薬理学、薬効薬理試験評価概論)と実習を担当しています。また、配属学生の卒業研究(含文献調査)では問題発見と解決能力が身につけられるよう指導を行っています。

研究に関しては「糖尿病性神経障害性疼痛における脊髄アンジ

オテンシン系の関与の解明」、「精神神経疾患動物モデルの作製とその発症機序の解明」、「生活習慣の乱れに基づく疾患動物モデルの作製とその発症機序の解明」、「広汎性侵害調節の解明」の四つの主要テーマについて行動薬理学を主軸に分子生物学や免疫組織学的手法を交え、学生達とともに研究に取り組んでいます。研究に携わる時間を有効に使って、学術雑誌にコンスタントに掲載できるように教室員一同努力しているところです。



写真左から根本助教、丹野孝一教授、八百板富紀枝准教授、中川西修准教授

ラジオ×YouTube番組スタート

ラジオ番組「教えて!東北医科薬科大学」が令和4年10月にスタートしました。教職員や在学生、卒業生が出演して、本学の教育や研究、附属病院での診療についてお話しする10分間の番組です。今後は、健康について、お薬について、身体についてなど、皆さまからの疑問にお答えしていく予定です。

番組は地域貢献活動の一つとして、下記の地域密着型コミュニティFMで放送中。また、大学公式YouTubeでも番組内容を公開しています。ぜひご視聴いただき、皆さまの声をお寄せください!

■YouTube動画は右記QRコード、または大学HPの下記のバナーからご覧ください



放送局	放送日(放送時間:10分間)
ラジオ石巻	毎週(火) 14:00頃～ (生放送「午後もやっぱり764」内)
ラヂオ気仙沼	毎週(木) 10:20頃～ (「TurnTable775」内)
H@!FM (株)登米コミュニティエフエム	毎週(金) 16:15頃～ (生放送「H@!STATION」内)
エフエムいわぬま	毎週(金) 17:20頃～ (生放送「スマイルジャンクション」内)

※インターネットラジオでもお聴きいただけます。
エフエムいわぬま JCBAインターネットサイマルラジオ (jcbasimul.com)



両学部長の収録の様子



東北医科薬科大学病院長の収録の様子



YouTube動画撮影の様子

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)・記念グッズの紹介

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

<寄付申し込み方法(個人でのお申込み)>

- ・インターネット:クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLよりお手続きください。
(教育研究協力資金URL:<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/>)
- ・銀行振込: 振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。



<問い合わせ先>

財務部財務課 TEL:022-234-4181(代表) E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp

<記念グッズの贈呈について>

個人で教育研究協力資金へご寄付いただいた皆さまへ、1回の寄附金額に応じ、大学ロゴマーク入りの記念グッズをお送りいたします。

記念グッズの例(写真はイメージです)



オリジナル付箋セット



オリジナルエコバッグ

教育研究協力資金の受入状況および用途報告

令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)の教育研究協力資金の受入状況は以下のとおりです。

	在校生保護者	同窓生	その他個人	法人	合計
件数	244	287	3	7	541
金額(円)	11,484,030	7,952,000	60,000	32,500,000	51,996,030

この度は、教育研究協力資金の趣旨にご賛同いただき、ご寄付を賜りまして誠にありがとうございます。

皆様から賜りました寄付金は、浸透圧計や、画像解析装置、研究に使用する薬品、顕微鏡など、教育研究の質的向上と維持及び教育研究環境の充実のために必要となる設備や機器購入費用の一部に充当させていただきました。

今後も、皆様からのご寄付を有効に活用するうえ、人材の養成に努め、本学の使命を全うしてまいりますので、引き続きお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
電話番号 022(234)4181(代) FAX 022(275)2383
URL <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから

東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから